

## 地域再生計画

### 1 地域再生計画の名称

萩温泉郷を活用した滞在型観光促進プロジェクト

### 2 地域再生計画の作成主体の名称

山口県萩市

### 3 地域再生計画の区域

山口県萩市の全域

### 4 地域再生計画の目標

#### 4-1 地方創生の実現における構造的な課題

萩市は人口減少と高齢化が著しく、また、出生数の低下に加え、若年層を中心に転出超過が続いており、本市の経済や社会を支える担い手不足は深刻な状態にある。

萩市は全国有数の観光地で令和元年には4,506,575人の観光施設等への延べ入込客数となった。一方で宿泊者は405,409人とどまり、旅行スタイルは通過型観光となっており、観光による経済効果が十分に発揮されず、滞在型観光の仕組みづくりが長年の懸案である。また、自然・文化・歴史・食など多種多様な観光資源を有しているにもかかわらず、世界遺産などのある旧萩地域の令和元年観光入込客数が3,368,474人となるなど歴史観光が中心で、周辺地域の多くの観光資源が十分に生かされていない。

萩田万川温泉センターの周辺には、道の駅「ゆとりパークたまがわ」をはじめ、キャンプ場やRVパーク、海水浴場などが整備されているほか、ジオサイトと呼ばれる萩ジオパークの見どころなど観光資源は多く、特にキャンプ場等では、近年のアウトドアブームもあって令和元年は利用者が対前年比192%と急増しているものの、各資源の連携が十分に図られていないため、滞在時間を伸ばすような体験等のメニューが貧弱で消費行動に結び付いていない。

萩市の観光資源の一つである、市内8つの泉源を総称した「萩温泉郷」についても、これまで官民が一体となった温泉活用による滞在型観光の取組を展開しているが、令和元年に実施した萩市満足度アンケート調査では、温泉を求めて萩市にきた人は18%にとどまった。

「萩温泉郷」の一つである萩田万川温泉センターは、島根県との県境に位置しており、平成8年に開業後、平成11年度の約15万人をピークに、年々利用者は減少し、平成元年度は約6万人まで落ち込んでいる。この要因としては、利用者のニーズにあった機能を備えていないことがあげられる。地元食材をつかったキャンプ料理を楽しみたい、アウトドアを満喫する体験プログラムを体験したい、テントサウナがブームになるなどキャンプでサウナを楽しみたいといったニーズが求められているにもかかわらず、現在の施設は、地元食材の提供を行う仕組みや、サウナ機能などを有していない。近年、キャンプやアウトドアで訪れる新たな人の流れができてきているものの、田万川温泉センターをはじめ、周辺施設が利用されず、このエリアで消費してもらう機会を損失している。新たな顧客を獲得するためにも、道の駅と連携した地元産食材の提供等を行うスペース、雨天時においてもアウトドア活動を可能とする多目的テラスの整備のほか、サウナルームの設置など機能を追加する必要がある。

#### 4-2 地方創生として目指す将来像

##### 【概要】

本市は人口減少と高齢化が著しく、令和2年11月末現在の住民基本台帳では、10年前の約17%減となる45,565人、高齢化率は43.5%であり、社人研によると、20年後の人口は更に約35%の減少と推計されている。また、出生数の低下に加え、若年層を中心に転出超過が続いており、本市の経済や社会を支える担い手不足は深刻な状態にある。

また、本市は全国有数の観光地であり、観光施設等への延べ入込客数は年間450万人を超えているが、一方で、通過型観光から脱却しきれず、滞在型観光の仕組みづくりが長年の懸案でもあり、また、自然・文化・歴史・食など多種多様な観光資源を有しているにもかかわらず、歴史観光に偏重した取組が展開されてきた。

本市における持続可能なまちづくりとして、また、主要産業の一つでもある

観光産業の振興に向けて、交流人口の拡大と滞在型観光の促進は極めて重要である。特に、滞在型観光は、旅行消費額を増やし、地域経済に好循環をもたらすだけでなく、地域との深い交流を育み、将来の移住に繋がるなどの効果も期待でき、加えて、観光産業は裾野が広いことから、本市においては非常に有用な取組となる。

また、本市の観光資源の一つとして、市内8つの泉源を総称した「萩温泉郷」があり、これまで官民が一体となった温泉活用による滞在型観光の取組を展開しているが、温泉プラス食事や買い物といった従来のプログラムに加え、地域内の多種多様な観光資源と連携し、本市の強みを生かした、滞在時間の増加に繋がる観光コンテンツの創出が求められている。

このような中、本市は海、山、川の豊かな自然に恵まれ、市内各所に北長門海岸国定公園指定の美しい海岸線、東洋一小さいといわれる活火山、国指定天然記念物の海跡湖、国指定名勝の溪谷などの観光資源も多く点在する。加えて、市内には自然を生かしたキャンプ場やRVパークもあり、近年のアウトドア志向の高まりにより、利用客数は増加傾向にあり、また、本市は日本ジオパークに認定されて以来、ジオパーク目線でのツアープログラムの造成も行われ、注目を浴びている。

本市の新たな観光交流プロジェクトとして、「萩温泉郷」の施設を拠点とした自然を生かした魅力ある観光コンテンツを創出するため、萩市所有の温泉施設を改修するとともに、地域内に賦存する観光資源や既存プログラム等との組み合わせによるプログラムを造成するなど、これらの取組を通じて、交流人口の拡大と滞在型観光の促進を図り、持続可能なまちづくりを目指す。

#### 【数値目標】

K P I	事業開始前 (現時点)	2021年度増加分 1年目	2022年度増加分 2年目
萩田万川温泉センターの年間売上額	19,571千円	0円	13,749千円
萩田万川温泉センターの年間利用客数	54,171人	0人	14,829人
萩田万川温泉センターを拠点とした観光プログラム造成数	0個	0個	1個

2023年度増加分 3年目	2024年度増加分 4年目	2025年度増加分 5年目	K P I 増加分 の累計
440千円	244千円	196千円	14,629千円
500人	300人	200人	15,829人
1個	1個	1個	4個

## 5 地域再生を図るために行う事業

### 5-1 全体の概要

5-2の③及び5-3のとおり。

### 5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

#### ○ 地方創生拠点整備交付金（内閣府）：【A3007（拠点整備）】

##### ① 事業主体

2に同じ。

##### ② 事業の名称

アウトドアとコラボ！萩田万川温泉センターリニューアル事業

##### ③ 事業の内容

- ・人口減少が進み、多くの課題を抱える中、観光を主要産業とする本市において、滞在型観光の促進は正に生き残りをかけた戦略であり、従来にない新たな萩の観光イメージとともに、ウイズコロナ・アフターコロナ時代の安心安全な観光プログラムの創出に向けて、十分な活用が見られない「萩温泉郷」と萩ジオパーク等の自然を組み合わせ、情報発信機能の強化や体験型の観光商品の開発等により、周遊性を高め、滞在時間を伸ばす取組を実施する。
- ・萩田万川温泉センターに隣接するキャンプ場やRVパークをはじめ、自然や食などの地域資源と組み合わせる観光プログラムを造成するため、アウトドアをテーマとした当施設の改修を行う。
- ・改修にあたっては、道の駅と連携した地元産食材の提供等を行うスペースや、雨天時においてもアウトドア活動を可能とする多目的テラスの整

備のほか、現在、滞在型観光の一つとして取り組むサイクリングプログラムが定着できるようサイクルステーションを設置するなど、温泉と自然を満喫するプログラムを实践できる環境を整備する。

- ・萩田万川温泉センター利用者のニーズに応えるべく、サウナルームの設置をはじめ、女性用更衣室の機能や休憩スペースの充実など、施設の利便性向上を図るとともに、省エネ効果の高い照明や給湯設備の導入により環境に配慮するとともにランニングコストの縮減を図る。
- ・観光プログラムの造成・実施にあたっては、道の駅や地域団体等との連携を十分に図り、持続可能な仕組みを構築するとともに、アウトドア志向の観光客等に訴求する情報発信を行う。併せて、従来の日帰り温泉客が更に広がるよう、「萩温泉郷」の効能に加え、リニューアルの内容及び効果について、隣接する益田市等への情報発信を積極的に展開するなど、これらを通じて、当該施設における収入の確保を図り、施設の自立性を高めていく。

#### ④ 事業が先導的であると認められる理由

##### 【自立性】

当施設は、「株式会社たまがわ」が指定管理者として受託し運営しており、売上は、入浴料収入のほか、特産品等の販売による収入で構成されている。平成8年の開業以降、平成23年度まで黒字経営が行われていたが、利用者のニーズにあった機能を備えていない等のため、年々利用者が減少し、更には、修繕費の増加や燃料費の高騰などにより経費が嵩み、平成24年度以降は赤字経営となっている。

本事業により、利用者のニーズに応えた施設にリニューアルされ、更には、当施設を拠点とした新たな観光プログラムが造成されるなど、施設の魅力が飛躍的に向上することとなり、温泉利用客の増加のみならず、新たな客層の取り込みも可能となる。また、「株式会社たまがわ」は、近接する「道の駅ゆとりパークたまがわ」の運営や地元農産物の加工販売なども行っており、これらの事業との連携を図り、道の駅にある地元産食材の提供を行うなど、新たな収入の確保に努めるとともに、一方で、LED照明やヒートポンプ方式の給湯設備の導入により、環境に

配慮するとともにエネルギーコストの縮減を図る。更には、リニューアルに伴い、利用料の増額改定を予定しており、これらの一体的な取組を通じて、増収と経費削減を図り、持続可能な施設経営を目指す。

### 【官民協働】

本事業により、当施設にアウトドアのイメージが新たに加わることとなり、隣接するキャンプ場やRVパーク、海水浴場のみならず、地域内の多種多様な観光資源と組み合わせた、ターゲットに訴求するストーリー性のあるプログラムづくり、更には、施設の魅力を最大限引き出すことのできる情報発信が重要となる。

このため、当施設を運営する「株式会社たまがわ」のみならず、観光客目線でのプログラムづくりに関わり、日本版DMOに登録される（一社）萩市観光協会をはじめ、自然・文化・食などに深く関わるJF、JA、商工会、住民組織等の参画は欠かせず、その参画する仕組みを構築することにより、官民一体となった地域の賑わいを創出し、交流人口の増加と滞在型観光の促進を図る。このほか、当施設を拠点としたサイクリングプログラムの造成に向けて、現在も本市の取組に関わる山口県サイクリング協会等の参画を予定している。

なお、行政の役割として、施設整備はもとより、本市における「萩温泉郷」を活用した観光コンテンツ創出のモデル事例として位置づけ、商工や農林水産などの関係部局との連携を図り、地域おこし協力隊の活用等によるコーディネートや情報発信ツールを提供するなど、効果的な事業展開に向けた支援を行う。

### 【地域間連携】

本市は、地理的・経済的に密接な関係にある自治体とともに、連携中枢都市圏構想や任意の協議会等による組織を構築し、広域連携によるメリットを生かした観光の取組を進めている。具体的には、山口市、宇部市、防府市、山陽小野田市、美祢市、津和野町と連携した周遊観光プログラムの造成、インバウンドの誘客対策、山口県、益田市、津和野町と連携した周遊サイクリングルートの形成などに取り組んでいる。

本事業により、当施設の魅力が向上し、新たな観光ニーズに応えることが可能となることから、関係自治体との広域連携により、新たなストーリー性のある観光プログラムの造成に取り組み、交流人口の拡大を図る。このことにより、当施設に止まらず、関係自治体が持つ観光資源にも新たな活用が生まれ、広域的な滞在型観光の促進となり、各地域への経済効果も期待できる。

#### 【政策間連携】

本事業により、新たな交流人口が創出されるとともに、新たな観光サービス事業が展開されることから、雇用の創出や地域経済の活性化に繋がる。また、地域住民の憩いの場としての機能が高まり、住み慣れた地域で生きいきと暮らすことができるなど福祉面での効果も期待でき、更には、当施設を拠点としたサイクリング等による観光周遊ルートが設定されることにより、スポーツの振興、延いては健康増進にも繋がる。このほか、本市はジオパークの取組にも力を入れており、地域内に点在するジオサイトを組み合わせたプログラムを造成することで、大地と向き合い、共に生きる意識を育むことができ、教育や防災など幅広い面で効果が期待できる。

#### ⑤ 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（K P I））

4-2の【数値目標】に同じ。

#### ⑥ 評価の方法、時期及び体制

##### 【検証方法】

毎年度3月末時点のK P Iの達成状況を踏まえ、毎年度6月頃に「萩市総合戦略推進委員会」において評価を行う。評価結果を踏まえ、目標の効果的な実現に向けて必要な計画の見直しや変更を行う。検証後は、萩公式ホームページ等で公表する。

##### 【外部組織の参画者】

【産】萩商工会議所、（一社）萩市観光協会、山口県農業協同組合萩統括本部、山口県漁協協同組合はぎ統括支店、阿武萩森林組合、萩ブランド協同組合、萩温泉旅館協同組合、萩・阿西商工会

【学】 至誠館大学

【金】 山口銀行萩支店、萩山口信用金庫萩支店

【労】 連合山口中部地域協議会萩地区会議

【言】 NHK山口放送局、萩テレビ株式会社

【住民】 (一社) 萩青年会議所、萩市社会福祉協議会、萩市児童クラブ  
連絡協議会、元萩西中学校PTA、まちづくりの会、萩LOVE、  
萩元気食の会、川上地域コミュニティ協議会、生活支援  
コーディネーター、むつみ元気支援隊、NPO須佐元気なまち  
づくりネット、佐々並婦人会、紫福楽寿会

【官(オブザーバー)】 山口県萩県民局、萩公共職業安定所

#### 【検証結果の公表の方法】

検証後、萩市公式ホームページ等で公表する。

#### ⑦ 交付対象事業に要する経費

- ・ 法第5条第4項第1号イに関する事業【A3007】

総事業費 278,875千円

#### ⑧ 事業実施期間

地域再生計画の認定の日から2026年3月31日まで

#### ⑨ その他必要な事項

特になし。

### 5-3 その他の事業

#### 5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし。

#### 5-3-2 支援措置によらない独自の取組

##### (1) 萩版DMO推進事業

事業概要：地域にある魅力ある観光資源を活用した体験プログラム  
作成など魅力ある観光コンテンツの創出による滞在型観光促  
進に取り組む。



実施主体：山口県萩市、一般社団法人萩市観光協会

事業期間：2021年4月1日～2026年3月31日

## (2) 萩ジオパーク推進事業

事業概要：日本ジオパークネットワークに加盟し、市民とともにジオサイト等地質遺産の保全とそれらを生かした教育および持続可能な開発を推進する。

実施主体：山口県萩市

実施期間：2021年4月1日～2026年3月31日

## (3) 田万川地域観光施設運営事業

事業概要：萩田万川温泉センターと連携したキャンプ場や海水浴場の管理・運営を行う。

実施主体：山口県萩市

実施期間：2021年4月1日～2026年3月31日

## 6 計画期間

地域再生計画の認定の日から2026年3月31日まで

## 7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

### 7-1 目標の達成状況に係る評価の手法

5-2の⑥の【検証方法】及び【外部組織の参画者】に同じ。

### 7-2 目標の達成状況に係る評価の時期及び評価を行う内容

4-2に掲げる目標について、7-1に掲げる評価の手法により行う。

### 7-3 目標の達成状況に係る評価の公表の手法

5-2の⑥の【検証結果の公表の方法】に同じ。